

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	北上市立 黒沢尻東小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	3	21	33
児童数	89	98	103	85	90	88	5	556	

研究の概要

1. 研究主題

<p>確かな学力の定着をめざした指導の工夫改善 - 個に応じた指導の工夫を通して(国語科・算数科) -</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>第1学年～第6学年 国語 (学校として、研究継続の観点から) 第1学年～第6学年 算数 (学校として、研究継続の観点から)</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力の定着をめざした指導の工夫改善 - 個に応じた指導の工夫改善 -</p> <p>仮説 国語科及び算数科において 発展的な学習や補充的な学習等、個に応じた指導のための教材の開発 個に応じた指導のための指導方法、指導体制の工夫改善 児童の学力の評価を生かした指導の改善 を行うことにより、確かな学力の定着をめざした指導の工夫・改善点 が明らかになるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた指導のための教材開発</li> <li>・ 個に応じた指導方法、指導体制の工夫改善</li> <li>・ 評価を生かした指導の工夫</li> </ul> <p>以上を授業実践を通して研究する。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の定着をめざした指導の工夫改善 - 個に応じた指導の工夫を通して(国語科・算数科) -</p> <p>仮説 国語科・算数科において、個に応じた指導の工夫を以下のように行えば、 児童の学ぶ意欲が高まり確かな学力が身に付くであろう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 多様な教材や学習活動を工夫する。</li> <li>(2) 一人一人にきめ細かな指導を行い、学習が効果的に行えるよう工夫する。</li> <li>(3) 自己評価や相互評価を通して学習意欲を高めるとともに、児童の学習状況を把握し、指導に生かす工夫を行う。</li> </ol> <p>研究の内容・方法</p> <p>個に応じた指導の工夫の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 多様な教材や学習活動</li> <li>イ 少人数指導などの効果的な指導方法</li> <li>ウ 評価を生かした指導方法</li> </ul> <p>学習の習熟を図る日常実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 朝学習・家庭学習の取組</li> </ul>
--------	---

	イ 学校独自の習熟テストの実施 以上を授業実践を通して研究する。
--	-------------------------------------

平成16年度	<p>テーマ 確かな学力の定着をめざした指導の工夫改善 - 個に応じた指導の工夫を通して（国語科・算数科） -</p> <p>仮説 国語科・算数科において、個に応じた指導の工夫を以下のように行えば、児童の学ぶ意欲が高まり確かな学力が身に付くであろう。</p> <p>(1) 多様な教材や学習活動を工夫する。 (2) 一人一人にきめ細かな指導を行い、学習が効果的に行えるよう工夫する。 (3) 自己評価や相互評価を通して学習意欲を高めるとともに、児童の学習状況を把握し、指導に生かす工夫を行う。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた指導の工夫の観点       <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 多様な教材や学習活動</li> <li>イ 少人数指導などの効果的な指導方法</li> <li>ウ 評価を生かした指導方法</li> </ul> </li> <li>・ 学習の習熟を図る日常実践</li> </ul> <p>以上を授業実践を通して研究するとともに、学校公開を行う。</p>
--------	---

(3) 研究推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究推進委員会（校長、教頭、教務、研究部、学年主任）</li> <li>・ 国語科研究部会 ・算数科研究部会</li> </ul>
--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

<p>(1) 国語科の成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の願いや個に応じた教材や題材、テーマを用意したことにより、自分から書き進めていこうとする姿勢が見られるようになり、書くことに対する抵抗感を緩和することができた。</li> <li>・ 題材設定や作文の構成、推敲といった各段階、グループでの学習においてTTによりきめ細かな指導を行うことにより、児童の作文力の向上が認められた。</li> </ul> <p>第2学年2学期の作文の実践では、推敲についての事前、事後のテストでは85%の児童が言語事項の定着が向上した。また、短作文において「いつ・どこで・誰が・何を・どうした」の5項目を満たし「かぎ」を正しく使って書くことができるようになった児童が増えている。また、日記など日常の生活文に学習した事柄を生かす児童が見られるようになってきた。</p> <p>第4学年2学期のTTの実践では、TTによる指導について全体の75人（85%）の児童が「とてもよかった・よかった」と回答している。また、「読み手に分かるような作文にできたか」の問いには、70人（80%）の児童が「よくできた・できた」と回答している。第6学年2学期の作文単元においても78人（88%）の児童が「よくできた・できた」と回答し、個に応じた指導が児童の作文力の向上とともに作文に対する抵抗感をやわらげる上で効果があると認められた。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座席表等を活用し、評価規準を基に児童の実態を把握し一人一人の指導に生かすよう工夫を進め、効果も認められたが、十分生かし切れなかった。より活用しやすい見取りと評価の仕方を工夫する必要がある。</li> </ul> <p>(2) 算数科の成果と課題</p> <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元や1単位時間の学習の中で、児童の学習方法や習熟度など、課題に応じたコースを設定し、事前テストやアンケートを元に児童が選択できるようにしたこと、また、コース毎に少人数指導を行いきめ細かな指導を進めたことにより、児童は集中して学習に取り組むようになった。</li> </ul> <p>第4年生1学期の習熟度によるコース別学習（少人数指導）では、児童全員が「またやりたい」「やってもいい」と肯定的に回答している。また、第6学年2学期のコース選択による少人数学習でも、ほとんどの児童</p>
---

が「分かりやすい」「発言しやすい」と回答し、97%の児童が「またやりたい」と回答している。他の学年においても同様の傾向が見られ、児童の学習意欲の向上が認められた。

次に、数と計算単元における各学年2つの実践報告では、ワークテストの正答率が低学年92%、高学年では86%の結果が得られ、評価規準に照らしてもほとんどの児童がおおむね満足の学習結果であり、計算力の向上や定着が認められた。

課題

- ・ 単元レベルでの向上は認められるが、学期や年度を通じて確かな計算力の定着が図られているのか、客観的に見ていく必要がある。

(3) 日常実践の工夫による成果と課題

成果

朝学習、家庭学習、黒東小テストの取組を通して以下のような成果が見られた。

- ・ 児童が学習に対して、集中して取り組めるようになってきたこと。
- ・ 基礎・基本の定着がより図られるようになってきたこと。

課題

- ・ 学力検査等の資料を参考に落ち込みの見られる学習内容の回復措置を講じていくこと。
- ・ 黒東小テストで目標点に達しなかった学年は取組の見直しを行うこと。

2. 今後の課題

(1) CRTテストなどの結果を基に、年度を通じて学力の向上が図られているのかを過去の記録と比較、分析し客観的に捉えるとともに、不十分な点について更に指導の工夫・改善を図る。

(2) 基礎・基本の定着が児童にどのように図られているのか絶対評価の観点から評価を行う。

(3) 国語科、算数科についての意識の向上が図られているのか学校全体としての傾向を捉え分析を進める。

(4) 日常的に児童を観察する観点を設定して、児童の変容を見取りながら基礎・基本の定着が生きてはたらく力として身に付いているのか検証を進める。

学力等把握のための学校としての取組

CRTの実施（年1回、1月下旬実施で2・3月に回復措置をする予定）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・ 研究会の開催

今年度、6回の全体授業研究会ではフロンティア校や近隣の学校に案内をして研究会に参加していただき、意見交流を行った。

・ HP作成については、作成方向で検討中である。パンフレットについては作成する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他

【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無